

大津北警察署移転新築整備について

1 施設整備方針

老朽化、狭隘化等の課題を解決するとともに、警察活動のための機能性や庁舎セキュリティ、災害発生時の活動拠点としての施設性能を確保するもの。

2 移転予定地

- ・ 消防等との連携や住民の利便性等を考慮し決定
- ・ 面積：約 9,000 m²（農道・水路整備後、約 8,000 m²）

3 施設規模（予定）

- ・ 延床面積…約 4,000 m²
- ・ 鉄筋コンクリート造 地上4階建

4 建築に係る整備手法等

定量的評価、定性的評価を総合的に判断し、従来型手法を適当とする。

(1) PPP／PFI手法簡易評価結果

定量的評価 (VFM)	BTO…0.6% BT…1.5%
定性的評価 (PPP/PFI 手法活用による効果発揮可能性)	1 他の公共団体等における類似の事業実績があり、効果が期待できるか。 ⇒類似実績なし 2 料金徴収を伴う運営を含むなど、幅広い包括発注が可能で、民間の創意工夫の余地が大きいか。 ⇒余地は小さい 3 画一的な施設でない等、建物の仕様・配置等の面で民間の裁量の余地が大きいか。 ⇒余地は小さい 4 事業実施スケジュールが成り立つか。 ⇒早急に計画を実施する必要性あり 5 PFI手法活用による交付税措置があるか。 ⇒交付税措置はない

※ 整備費用は、令和6年度の単価等を基に算定しており以降の物価上昇等の影響は加味していない。

(2) その他

「建設発生土情報交換システム」への登録など整備費用の縮減に努める。

5 整備スケジュール（従来型手法採用）

令和10年度中に建物工事を完了、運用開始を予定。

